



# WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2600地区 上田ロータリークラブ  
(創立1959年11月12日)



UNITE  
FOR  
GOOD

よいことのために  
手を取りあおう

2025-2026年度 国際ロータリーメッセージ

## よいことのために手を取りあおう

R.I.会長 フランチェスコ・アレツツォ

国際ロータリー第2600地区 ガバナー 小林 磨史

2025-26年度 上田ロータリークラブ

- 会長 窪田 秀徳 ●副会長 内河 利夫・飯島 幸宏
- 幹事 湯田 勝己 ●会報委員長 藤森 幸路

## 第2998回例会 (令和7年9月22日)



ホームページQR

### [会長挨拶]

窪田 秀徳 会長

本日は、改めて「ロータリークラブとは何か」「私たちの組織がどのように成り立っているのか」についてお話ししたいと思います。



ロータリークラブは、国際的な奉仕団体です。私たちが所属するクラブは、決して一つの町や一つの仲間内だけの存在ではなく、壮大な組織の一部として位置づけられています。その全体像を知ることは、ロータリアンとして活動する上での誇りや意義を再確認する大切なきっかけとなります。

まず頂点にあるのが「国際ロータリー(R.I.)」です。本部はアメリカ・イリノイ州エバンストンに置かれ、世界のロータリー活動の理念や方針を定めています。今年のテーマも、国際ロータリー会長が掲げたビジョンやテーマ「よいことのために手を取りあおう」に基づいて世界中で共有され、すべてのクラブがその旗のもとに活動しています。

次に、その方針を地域に根づかせる役割を担うのが「地区」です。日本には34の地区があり、私たちが所属するのは「第2600地区」、すなわち長野県全域をカバーする地区です。この地区には9つのグループ、合計51のクラブが所属しています。上田ロータリークラブは「東信第二グループ」に属し、丸子クラブ、上田東クラブ、上田西クラブ、上田六文銭クラブと共に活動をしています。

この地区を統括するリーダーが「地区ガバナー」です。任期は1年で、まさに地区知事のような存在です。国際ロータリー会長の方針を地区内クラブへ伝え、実行を促すだけでなく、各クラブの行事に公式訪問して現場の

声を聞き、課題を共有し、解決へ導く役割を担っています。地区大会を主催し、県内全体のクラブをつなげる役割も重要です。

ガバナーを支えるのがガバナー補佐です。また、ガバナーエレクト(次年度予定者)、ガバナーノミネー(2年後予定者)、そして実務を担う地区幹事や地区委員会も役割は違えども同様です。また、歴代のガバナーが集うパストガバナー会が知恵袋となり、地区運営を支えています。つまり、国際ロータリー会長 → 地区ガバナー → 各クラブ会長 というラインで理念と方針が伝わり、具体的な活動へとつながっていくのです。

それでは、私たちの身近な単位である「クラブ」についてお話しします。クラブは、最も地域に根ざした単位であり、ロータリアンが実際に奉仕活動を行う現場です。自治が尊重され、それぞれのクラブが独自の伝統や特色を持っています。私たち上田ロータリークラブも、60年以上の歴史の中で多くの地域奉仕を積み重ねてきました。例会や奉仕活動は、単なる集まりではなく、「地域社会に貢献するために何ができるか」を考え役員理事会で話し合い、委員会などでも協議して実行しています。

さて、こうした組織の仕組みを知った上で、ぜひ皆さんに強調したいのが「地区大会に参加する意義」です。地区大会に出席すると、ロータリーが何を考え、何をしているのかをたった1日で多くを知ることができます。県内の多くのロータリアンと交流でき、自分のクラブだけでは得られない学びや刺激を受けられます。他クラブの活動事例を知ることは新しい発想につながり、また「自分もロータリアンの一員なのだ」という

誇りを感じられる良い機会にもなります。

最後にお伝えしたいのは、この組織の規模や仕組みは壮大でありながら、実際に地域で行動するのは私たち一人ひとりであるということです。国際ロータリーが旗を掲げ、地区が伝達したり支援したりある方向を示したりして各クラブが実行するきっかけを得ます。その最前線に立つのが、私たち上田クラブの会員です。つまり、皆さん一人ひとりが、ロータリーの理念を地域に届ける大切な担い手なのです。

どうか、この誇りを胸に、本年度の上田ロータリークラブのテーマ『地域と仲間の絆物語』のど真ん中で行動していただけたら幸いです。これからも共に考え活動を進めてまいりましょう。

#### [2024-2025年度 会計報告]

伊藤 典夫 前会計

昨年度の決算がまとまりましたので、本日ご報告をさせていただきます。決算内容の詳細につきましては、先日お配り致しました



クラブ計画書の記載の通りですが、冒頭に申し上げたいのが、大きな問題となり、また、多くのご批判の対象ともなっております次年度繰越金の大幅な減額についてであります。

昨年度、会計の役をお受けするにあたり、繰越金の在り方について他クラブの皆様や当クラブで以前在籍されていた方々等、会計業務に詳しい数名の方々にお話をお聞きして、繰越金の適正額を伺いました。我々ロータリークラブのような任意団体においては、あまり多すぎても不適正であり、また少なすぎても不安なものだというのが皆さんの認識で、ズバリこのくらいという解はお聞きできませんでした。

そこで私なりに入会してからの16年間の推移を調べてみました。16年前から10年前くらいまでの期間は概ね予算総額の10～15%程度で、200万円から300万円くらいの額で推移しておりました。その後、200万円を切り、100万円を切るような時代もあり、その頃には、会費の値上げについて議論されるようになりましたが、値上げは実現することなく過ぎました。その時には、事務局員が先代のフルタイムの方から現在のパートタイムの方に変更になり、人件費が縮小し、予算の見直しも行い、繰越金も300万円程度に復活致しました。

そして、近年の5年間くらいはコロナの影響で例会が開けず、数々の事業も実施できなくなり、予算額も大きく変動して繰越金はかなり増加してしまいました。潤沢な

繰越金を減額させなくてはならず、某会長の折には、国際奉仕の名目でR.I.に突出した多額の寄附金を拠出しました。翌年の地区大会において、R.I.からも特別表彰を受けることとなりました。その後、例会場の変更があり、予算も例会費が若干増額されました。以前の例会場の昼食との比較がなされ、会員の皆様の中から食事のグレードアップを希望される方々が徐々に増えていきました。

そして昨年度は高砂殿さんと協議をさせていただき、例会の会場費を固定化し、食事代を見直し、単面的には増額となりましたが、参加人数によっての変動方式と致しました。そんな事案も含めて、次年度繰越金はかなり減額となってしまいました。

しかしこの額については、いきなり955万円からストーンと527万円に下落した訳ではありません。ロータリークラブの現状を踏まえ、例年通りの事業展開を行えばこうなりますよ、といった予算書は、昨年度の当初にお示し致しました。その時の繰越予定額は617万円と記載してあります。クラブ計画書をご確認ください。

昨年度は、私も役員でしたので、理事会には出席させていただきました。その中では、再三に亘り、この状態で進行すると、繰越金は2～3年以内に払底してしまいますよ、との警告は発信してきたつもりです。

ここで、申し述べたいのは、先日の今年度会計の酒井さんの就任挨拶でもお話がありましたように、事業・活動費の見直しを行い、支出を抑えるのか、あるいは、会費の値上げを行ったり、会員の増加を推進して、収入の増加を図り、従前に近い事業・活動を継続させていくのか、どちらかの方法を検討すべきかと存じます。会費につきましては、私よりかなり古参のメンバーの方にお聞きしますと、その方の入会された頃から、ずっと会費は同じではないかとのこと。従って、諸物価の上昇を考えると、会員増強の観点からは会費の値上げはかなり困難かと考えますので、何らかの方法を会員全員で討議し、他クラブの情報等も参考にして、収入の増加を図り、事業・活動を減らさない方向を目指すのか、を選択して進んでいくことが必要な時期になっているのではないか、と思います。

一年間、会計という立場でロータリークラブの現状を見させていただき、将来に向けてのクラブ運営の在り方を考えさせられた一年でした。

## [会員卓話]

大日方 新治さん

皆さんこんにちは。本年4月にこの歴史と伝統ある上田ロータリークラブに入会させていただいた大日方新治です。



さて、本日何をお話ししようかと考えましたが、まず、わたくし大日方新治の自己紹介、現在営んでおります社業について、最後に社業とかかわりの深いアーチェリーについてお話ししたいと思います。何分不慣れですので、お聞き苦しい点等あるかと思いますが、ご容赦いただきしたいと思います。

私は北信の小川村出身でございます。小川村といえますと、「おやきが名物」と皆さん仰いますが、他には何もない山村です。中学時代はサッカー部に所属し、毎日片道7キロの道のりを歩いて学校まで通いました。もしこの道のりを毎日走っていれば、箱根の山の神になれたかもしれません。工業高校の機械科を卒業後、御代田町のベアリングメーカーに就職しました。この会社では、タイ、シンガポールの2か国に赴任させていただき、本当に多くの事を学ばせていただきました。この会社には9年間お世話になりました。

シンガポール赴任中に兄から、自身が勤める会社で「新たにフィッシングリールの製造をスタートするので手伝ってくれないか」とお願いされて転職したのですが、この会社は私が入社して1年足らずで倒産してしまいました。ただ、仕事そのものは沢山ありまして、リールの製造を続ける別会社を作っていただき、ほぼ同じスタッフで仕事を継続しました。このリール製造の会社は、アメリカのメーカーから委託されてのOEM生産で、100%輸出しておりまして、為替の差益でかなり儲かった時期もありました。しかし、10年ほどでアメリカからのOEMはほぼ0になりました。当初は20名ほどいたスタッフは最終的に社長と私、女性1名の3人になってしまいました。この時期に、ある方から「アーチェリーの部品製造をしてみないか」とのお話を頂いて照準器の部品製造をスタートしました。しかし、保有設備の老朽化、そもそもの性能面でお客様の要求に応えられない事案が多々発生しまして、社長に今後についての相談をしたところ、「設備の更新はしない」、「現有設備が使えなくなったら諦める」と回答されました。ここで私は独立を決意し、2008年12月、個人事業で開業しました。

2008年といえますと、リーマンショックが起こった年です。この年の12月に部品製造を行う事業をスタートしました。友人、知人からは「馬鹿じゃないのか、この

時期に」と言われました。確かに輸出産業は大打撃を受けており、世の中には仕事がありませんでした。また、明確な客先のあてが有ったわけでもないので、皆が言うように馬鹿だったのかもしれませんが、ただ、当時は勢いと根拠のない自信に満ちておりました。今思うと「ずいぶん無茶なことをしたものだな〜」と感じます。

開業から3ヶ月ほどは全く仕事がなく、売り上げは0でした。設備費、家賃、光熱費、稼働していなくてもお金は出ていきます。実は開業の1年半ほど前に家を購入しておりまして、貯金もありませんでした。この時私は妻に「もしかしたら買ったばかりのこの家に住めなくなるかも」と伝えました。すると妻は「良いじゃない、数年でも新しい家に住めたとせば」「でもあなたがダメになるってことは、私もダメになるってことだからね」と言われました。妻のこの言葉をきっかけに恥も外聞もなく頭を下げてアーチェリーの会社から少しずつ仕事を頂くようになりました。もしもこの妻の言葉がなかったら、私は今ここに居ないかもしれません。妻には本当に感謝しておりますし、頭が上がりません。

現在は上田菅平インター至近の住吉で競技用アーチェリー用品、半導体製造装置関連、音響関連の部品を6名の社員とともに製造しております。

さて、ここからは、当社の売り上げの70~80%を占めるアーチェリーについてお話しします。皆さんはアーチェリーの道具を実際に見たことはございますか？今日ここに2種類の弓具を持ってきました。皆さんから見て右がリカーブ、左がコンパウンドと言う道具になります。オリンピックはリカーブのみ、世界選手権はリカーブ、コンパウンド両方の競技があります。日本国内における競技者人口は1万5千人~2万人程度で横ばい、世界では700万人~800万人程度だと思われれます。非常にマイナースポーツであり、ニッチな市場、業界であります。日本ではリカーブの競技者が圧倒的に多く、アメリカではコンパウンドの競技者が圧倒的に多いです。また、北米では競技よりもアーチェリーを使った狩猟が盛んです。

オリンピックでは70m先の的に向けて矢を放ち得点を競います。個人戦、3名1組の男女団体戦、男女1名ずつのミックス戦があります。的の真ん中が10点で外側に行くに従って9点、8点、7点と点数が減っていきます。10点のエリアは直径12cm程、CDと同じくらいです。予選ラウンドでは6射×12ラウンド、72射の総得点で順位を決め、トーナメントラウンドを行います。トーナメントラウンドでは対戦相手と交互に3射(個人戦)もしくは6射(団体戦)×5ラウンド射って、ラウンドを多く

取った方が勝ちとなります。

弓具についてですが、オリンピックに出場するような、いわゆるTOP選手が使う道具は総額で70万円以上します。たとえば消耗品の矢は高額なもので1本1万円くらいします。一般的には1ダース(12本)で販売しますので、矢だけで12万円ほどになります。弓具の総額を聞いて皆さんはびっくりされたと思いますが、競技者人口が少ないので、お子さんやお孫さんが小さいうちからアーチェリーを始めれば、オリンピックになる確率は他のメジャースポーツより高いのではないのでしょうか。ここまで、アーチェリーについてお話してきましたが、私は18mの距離で2、3回しかやったことがありません。

今日の卓話をお聞きいただいて、「アーチェリーやってみたいな」と思われた方は、塩田の自然運動公園内に射場がございます。貸し出し用弓具もございます。ぜひ体験してみてください。また、この射場出身の現在は近畿大学1年生、白井選手が先日行われたU21世界大会で金メダルを獲得しています。白井選手は上田市スポーツ少年団でアーチェリーを始めたそうです。

今日は私のつまらない話にお付き合いいただき感謝いたします。ありがとうございました。

**[幹事報告]**

湯田 勝己 幹事

**1. 米山奨学会**

ハイライトよねやま 306号

**2. 地区事務所**

10月5日「会長エレクト・

次期幹事研修」プログラムについて

「第2回次期ガバナー補佐研修セミナー(オンライン)」のご案内

「第2回クラブサポートミーティング」開催のご案内

**3. 例会変更**

長野北RC 10/16(木) 定受あり

10/23(木) 10/30(木) 11/13(木) 11/27(木) 定受なし



**[ニコニコBOX]**

小山 宏幸 委員長

石井懋人さん 出田行徳さん 伊藤典夫さん 内河利夫さん 尾台修一さん 小幡晃大さん 大日方新治さん 窪田秀徳さん 桑原茂実さん 小山宏幸さん 斉藤達也さん 酒井喜雄さん 酒巻弘さん 滋野眞さん 関啓治さん 滝沢秀一さん 竹田和徳さん 土屋勝浩さん 比田井美恵さん 布施修一郎さん 保科茂久さん 三井英和さん 矢島康夫さん 湯田勝己さん

本日喜投額 24名 ￥31,000

累計 ￥460,000

**[例会の記録]**

司会：酒巻 弘 会場・出席委員長

斉唱：ロータリーソング

●2024-2025年度会計報告と会計監査報告

伊藤 典夫 前会計 小山 宏幸 前会計監査

●会長挨拶 ●幹事報告

●会員卓話 大日方 新治さん

**[ラッキー賞]**

土屋 勝浩さん(湯田勝己さんより)

日光のお土産 刺身湯葉)

小幡 晃大さん(湯田勝己さんより)

日光のお土産 金箔カステラ)

湯田 勝己さん(内河利夫さんより 両国相撲クッキー)

布施修一郎さん(藤森幸路さんより)

岡山土産 きびだんご)

酒井 喜雄さん(滋野 眞さんより 雪中梅)



**[出席報告]**

酒巻 弘 会場・出席委員長

	会員数	出席ベース	出席者数	出席免除(b) ( )内は出席者数	出席免除(a)	メイクアップ ( )内はMake up後	出席率
本日	53	52	39 コロナ欠席0	4(3)			75.00
前々回 (9/1)	53	52	46	4(3)		0(46) コロナ欠席0	88.46

**[次回例会予定]**

10月6日(月) 慶祝

3,000回記念・オープン夜間例会

(9月29日発行)

【会報担当】 尾台 修一 会報委員